

### 5-3 東海地方における地震活動の変化

#### On the Seismic Activity in the Tokai District

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division  
Japan Meteorological Agency

第1図は東海地方における最近5カ年間のマグニチュードが3.0以上の地震活動状況を示したものである。図に示したA, B, C領域の主な活動の変化は次のとおりである。

A領域：この領域の北半分の内陸部では地震は定常的に発生しているが、南半分の、大部分が海域となっている領域では1990年以後、活動レベルが低下している。

B領域：1988年後半から1989年前半にかけ空白化したが、これ以降、地震の発生数は平常状態に戻った。1989年後半以後本年5月6日までに発生した地震は31個<sup>\*1)</sup>で平均すると月1個の割合である。しかし発生場所が静岡市から焼津市付近の内陸部に片寄り、南半分の海域では1990年末から地震が発生していないなど、留意すべき点が残されている。最新の地震は4月24日21時12分のM3.1（駿河湾北部）である。

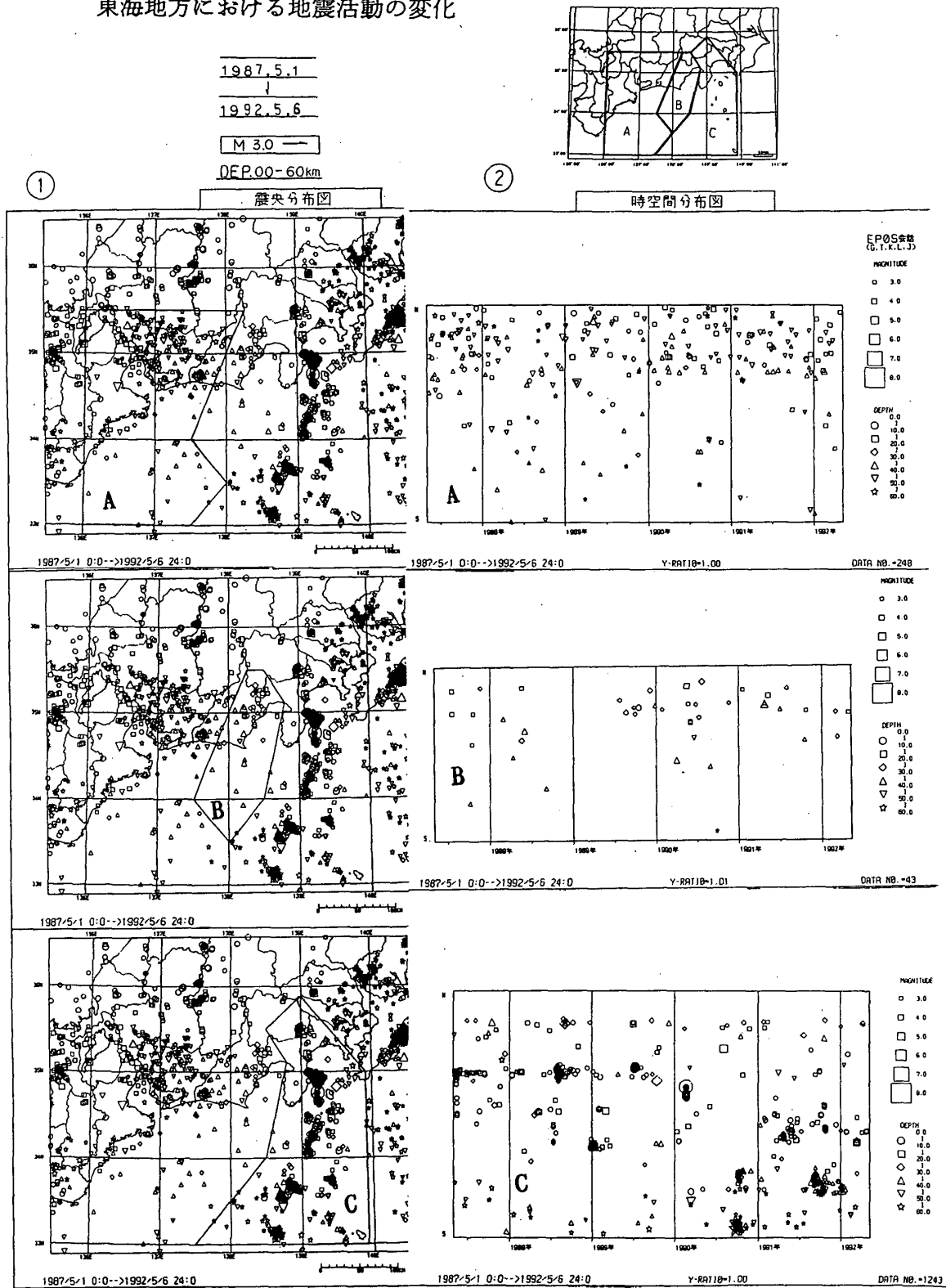
C領域：1990年2月20日に伊豆大島西方沖でM6.5の地震が発生して以後、伊豆半島東方沖や伊豆大島近海では、活動レベルが低下した。これに対し、新島近海から南の海域では東海道はるか沖のM6.6の地震（1990年9月24日）の発生があってから、三宅島近海の群発地震（1990年10月）、新島から神津島近海にかけての地震活動の活発化（1991年4月～10月）、神津島近海のM5.3（1992年3月10日）の地震など活発な状態が続いている<sup>\*2)</sup>。今後の推移が注目される。

\*1) これら31個の地震は次のとおり。

1992年2月29日15時52分のM3.4（深さ22.9km, 最大震度1）、3月9日03時58分のM3.1（同25km）、4月24日21時21分のM3.1（同16km, 最大震度1）。なお、2月までの分はすべて最終値である。また、1989年7月から1991年10月までの28地震については、会報第44巻～47巻「東海地方における地震活動の変化」の末尾に掲載。

\*2) これらの活動については、会報第44巻、45巻、46巻、47巻及び本巻別項参照。

# 東海地方における地震活動の変化



(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

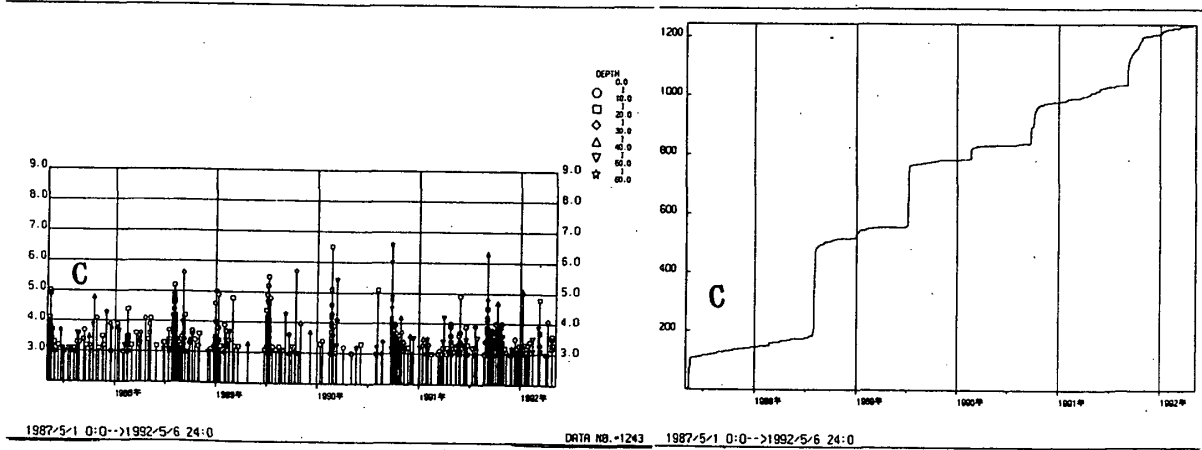
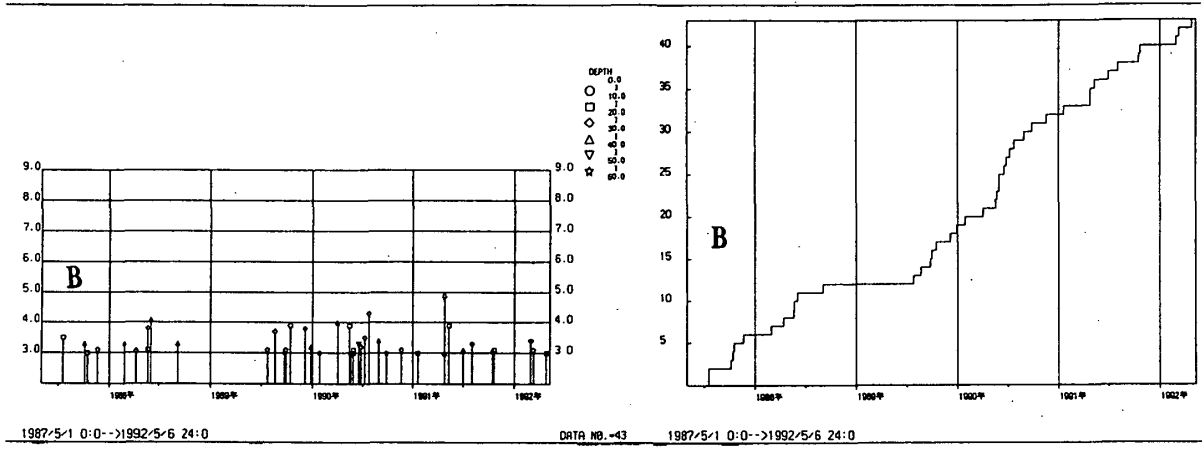
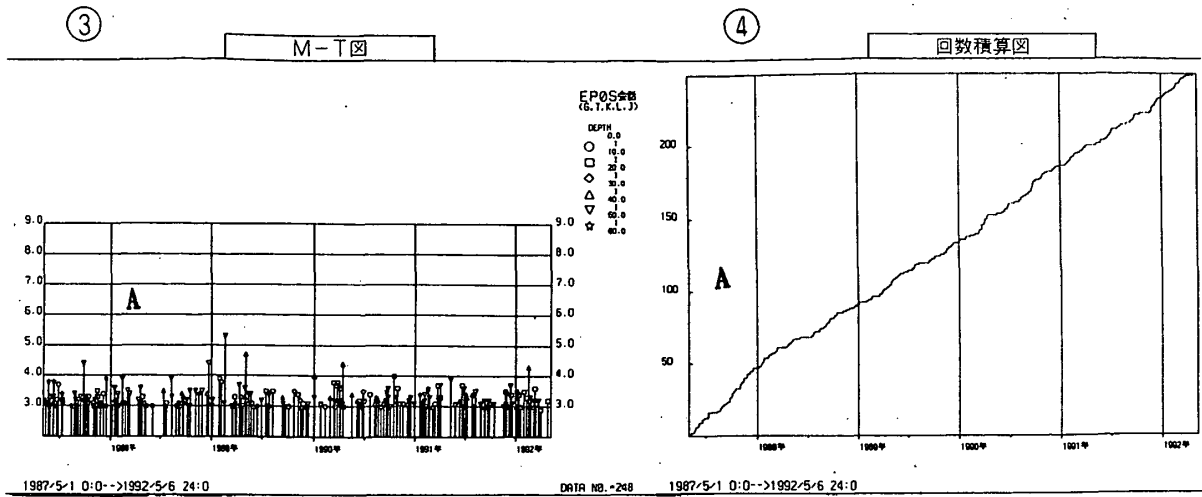
ザンティ: '92年3月1日

第1図 東海地方のA, B, C領域における地震活動

(1987年5月1日~1992年5月6日: M3.0以上)

①: 震央分布, ②: 時空間分布, ③: M-T図, ④: 地震回数積算図

Fig. 1 Seismic activity in regions A, B and C, Tokai District (May 1, 1987 – May 6, 1992:  $M \geq 3.0$ )  
①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram, ④: Cumulative number of earthquakes.



第1図 つづき  
Fig. 1 (Continued)